

# 空土ファーム生きもの調査 7月報告書

## 1. 調査の概要

### 1) 調査の目的

山梨県北杜市須玉町増富地域にある空土ファームの耕作放棄地を再耕作することにより、生物多様性がどのように変化するか、周辺環境も含め調査を実施する。また、その調査結果をもとに、一般向け自然観察会の実施や、ハンドブック作成も視野に入れる。

### 2) 調査方法

①調査レベル：主任研究員クラスによる現地調査

②調査地：山梨県北杜市須玉町増富地区「空土ファーム」とその周辺緑地（図-1）

今回の調査では、4カ所の調査地点を設定し、確認された生きものはどの調査地点で確認されたかを記録した。

③調査対象：鳥類、チョウ・トンボ・バッタ類等の大型昆虫類を中心に、姿・声・行動等を確認すると共に写真撮影を行う。両生類、は虫類、ほ乳類等は適宜調査する。

④調査日程：2019年7月26日 10:00~16:00



図-1 調査地全景および調査地点

## 2. 自動撮影装置の設置

C地点に自動撮影装置を設置し、夜間に活動する哺乳類などの記録を行った(図一2)。なお、今回の調査では哺乳類であるニホンイタチ、ニホンザル、ニホンリス、ニホンジカ、ニホンイノシシ、ハクビシン、ホンドギツネ、ホンドタヌキを記録することが出来た(図一3)。



図一2. 設置された自動撮影装置の様子



ニホンジカ



ニホンザル



ホンドギツネ



ニホンイタチ

図一3. 自動撮影装置で記録された生きもの

### 3. 空土ファームで見られた生きものたち

#### 1) 空土ファーム 生きものピックアップ

##### スジグロチャバネセセリ (D地点):

今回の調査では、塩川沿いの草地で、スジグロチャバネセセリという、環境省のレッドリストで「準絶滅危惧種 (NT)」に指定されているチョウの仲間が記録されました。このチョウは草地に樹木が混在するような疎林や林縁部で見られます。空土ファーム周辺では、草地や疎林など、様々な環境があるため、このような希少なチョウも見られるのだと考えられます。



スジグロチャバネセセリ

#### 2) 各調査地で見られた生きものたち



モートナイトトンボ (B地点)

無農薬の水田で発生することが多いトンボの仲間です。全国各地で減少しています。

※環境省 RL: 準絶滅危惧種 (NT)



ミヤマアカネ (B,D地点)

流れが緩やかな水辺を好みます。空土ファーム周辺で数多く見られました。



ミヤマカラスアゲハ (B地点)

標高の高いところに生息するアゲハチョウの仲間です。カラスザンショウなどに産卵します。



ウラギンヒヨウモン (D地点)

山地の草原などでよく見られます。全国的には草地環境の減少により数を減らしています。



オオチャバネセセリ (B地点)

山地のササ原などで見られます。撮影時はムラサキツメクサの花で吸蜜していました。

※山梨県 RL：準絶滅危惧種 (NT)



オオマルハナバチ (D地点)

ヒメジョオンの花で見られました。植物の花粉を運ぶ、花粉媒介者として重要な働きを担っています。



ガガイモ (D地点)

塩川沿いで見られました。花にはハチなどの昆虫が飛来します。



オモダカ (B地点)

水田などの湿地に生える植物です。除草剤などをまかない空土ファームではよく見る事ができます

### 3) 空土★生きものコラム ～音を使ってコミュニケーションを図る昆虫～

人間を含め、哺乳類や鳥類など、音を使って相手と意思疎通を図る生きものは多く見られますが、昆虫にも音を使ってコミュニケーションをとる種類はいます。空土ファーム周辺では、秋になるとコオロギやキリギリスの仲間が数多く鳴きますし、7月の調査でもニイニイゼミの鳴声が聞こえました。これらの昆虫が鳴くのは、主にオスがメスに自分の存在をアピールするためであったり、もしくはオス同士が威嚇のために鳴いたりもします。

そうした鳴く虫の中で、今回の調査では「ナキイナゴ」という、バッタの仲間が見つかりました。このナキイナゴのオスは、自らの前翅と、後脚をこすり合わせ、「シャカシャカ」と音を出す、面白いバッタの仲間なのです。

昆虫たちは種類によって様々な方法を用いて音を出します。夏から秋にかけて、様々な虫の音が聞こえてきますので、皆さんも是非耳を傾けてみて下さい。



ナキイナゴ (D地点)

### 3. 調査結果

表. 調査地内で見られた生物種(草本)

調査地域	種名	状態	備考	山梨県RDB	環境省RL
B	ウツボグサ	○			
B	オモダカ	○			
B	シロツメクサ	○			
B	スズメノテッポウ	○			
B	ヘビイチゴ	fr			
B	ミゾホオズキ	○			
C	ヤマムグラ	▽			
D	ガガイモ	○			
D	クサノオウ	○			
D	コヒルガオ	○			
D	ツユクサ	○			
D	ヒメジョオン	○			
D	ムラサキツメクサ	○			
D	メマツヨイグサ	○			
D	ヤブカンゾウ	○			
D	ヨウシュヤマゴボウ	○			

○:開花 Fr:結実 △:つぼみ ▽:花期終了

表. 調査地内で見られた生物種(木本)

調査地域	種名	状態	備考	山梨県RDB	環境省RL
D	クリ	○			

○:開花 Fr:結実 △:つぼみ ▽:花期終了

表. 調査地内で見られた生物種(昆虫)

調査地域	種名	状態	備考	山梨県RDB	環境省RL
A	アキアカネ				
A	シオカラトンボ				
A	ヒメゲンゴロウ				
A	ホソミオツネントンボ				
A	マツモムシ				
B	アキアカネ				
B	オンブバッタ				
B	コオイムシ			準絶滅危惧(NT)	準絶滅危惧(NT)
B	コノシメトンボ				
B	シオカラトンボ				
B	ジャノメチョウ				
B	スジボソヤマキチョウ				
B	ハネナガヒシバッタ				
B	ヒメアカネ				
B	ヒメゲンゴロウ				
B	ホソミオツネントンボ				
B	マツモムシ				
B	ミヤマアカネ				
B	ミヤマカラスアゲハ				
B	モートンイトトンボ			絶滅危惧1B類(EN)	準絶滅危惧(NT)
B	モンキチョウ				
B	モンシロチョウ				
C	エダナナフシ				
C	キマワリ				
C	スジグロシロチョウ				
C	ニイニゼミ				
C	ノシメトンボ				
C	ヒナバッタ				
C	ミスジチョウ				
D	アオイトトンボ				
D	アキアカネ				
D	アサヒナカワトンボ				
D	ウラギンヒョウモン				
D	ウリハムシ				
D	オオチャバネセセリ			準絶滅危惧(NT)	
D	オオマルハナバチ				
D	キタキチョウ				
D	キマダラセセリ				
D	コアシナガバチ				
D	コガタノカメノコハムシ				
D	シオヤアブ				
D	シロテンハナムグリ				
D	スジグロシロチョウ				
D	スジグロチャバネセセリ			絶滅危惧1B類(EN)	準絶滅危惧(NT)
D	セイヨウミツバチ				
D	セマダラコガネ				
D	ツバメシジミ				
D	テングチョウ				
D	エグリトラカミキリ				
D	トラマルハナバチ				
D	ナキイナゴ				
D	ナミハナアブ				
D	ニイニゼミ				
D	ニホンミツバチ		営巣		
D	ノシメトンボ				
D	ハサミツノカメムシ				
D	ヒナバッタ				
D	ヒメカメノコテントウ				
D	ブチヒゲカメムシ				
D	ベニシジミ				
D	ホソハリカメムシ				
D	ホソミオツネントンボ				
D	ミヤマアカネ				
D	モンキチョウ				
D	モンシロチョウ				
D	ヤマトフキバッタ				
ビオトープ	オオシオカラトンボ				
ビオトープ	コオイムシ			準絶滅危惧(NT)	準絶滅危惧(NT)
ビオトープ	ヒメゲンゴロウ				
ビオトープ	マツモムシ				

表. 調査地内で見られた生物種(両生類)

調査地域	種名	状態	備考	山梨県RDB	環境省RL
B	ニホンアマガエル				
D	ニホンアマガエル				

表. 調査地内で見られた生物種(鳥類)

調査地域	種名	状態	備考	山梨県RDB	環境省RL
B	トビ	fl			
C	ガビチョウ	c			
C	キジバト	v	自動撮影装置		
D	ウグイス	s			
D	ガビチョウ	c			
D	スズメ	v			
D	ツバメ	fl			
D	ヒヨドリ	c			

v:目視 c:地鳴き s:さえずり fl:飛翔 fd:採餌

表. 調査地内で見られた生物種(哺乳類)

調査地域	種名	状態	備考	山梨県RDB	環境省RL
C	ニホンイタチ		自動撮影装置	情報不足(DD)	
C	ニホンイノシシ		自動撮影装置		
C	ニホンザル		自動撮影装置		
C	ニホンジカ		自動撮影装置		
C	ニホンリス		自動撮影装置		
C	ハクビシン		自動撮影装置		
C	ホンダギツネ		自動撮影装置		
C	ホンダタヌキ		自動撮影装置		